

高島藤樹会

(題字は、竹脇雲卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川1225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740 (32) 4156

日本の誇り・郷土の誇り
中江藤樹

藤樹人間学塾塾長 田中 清行



青年が問う。「人は、生涯で、どのような道を選択して生き方とするのがよろしいでしょうか。」

今年二月に草津市で行われた滋賀大学主催の「先人学研究フォーラム」で、「中江藤樹」の話をさせていただき、好評をいただきました。その中から藤樹人間学塾の話をさせていただきます。

平成二十四年から「藤樹の著書を読んでその思想を学び、自分の頭で考え、良いと思ったことは実践する」ことを目的に藤樹人間学塾を始めました。

最初に取り組んだのが『翁問答』です。集まった同志で読み始めました。

『翁問答』は、藤樹三十四歳頃の著作で、その思想は、身分の上下を越えた平等思想に特徴があり、土・農・工・商の四民にまで広く浸透しました。「われも人も、人間のかたちあるほどのものはみな兄弟なり」。

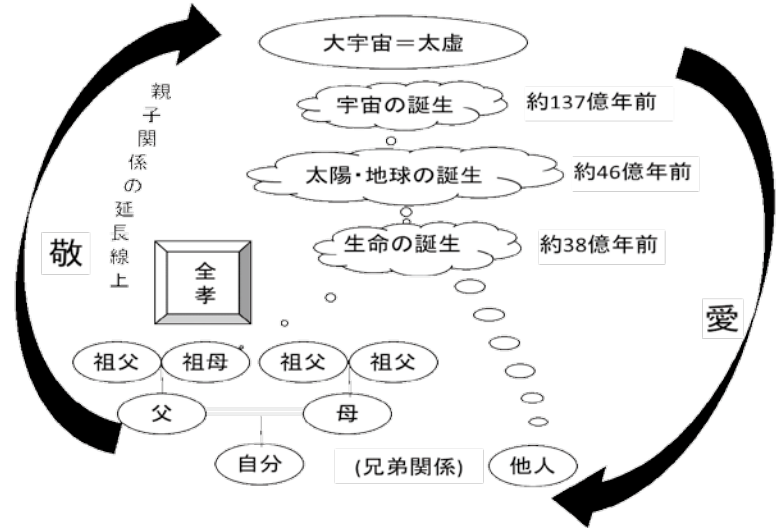
青年が問う。「人は、生涯で、どのような道を選択して生き方とするのがよろしいでしょうか。」

師が答える。「至徳要道という生得の宝を活かし心に守って五倫の道を行うべきである。そして、この宝を求めて学ぶことが儒者の学問であり、この教えは貴賤男女の違いなく本心ある人ならば誰もが実践できる道である」。

平成二十七年からは『大学解』をテキストに読み進めました。「大学の道は明德を明らかにするに在り。民に親しむに在り。至善に止まるに在り」。これは「良知に至る」と同じです。

平成二十八年からは『孝経啓蒙』を読み、議論を進めています。「孝は徳の本なり。教えのよって生ずるところなり。身体髪膚はこれを父母に受けたり。あえてそこないやぶらざるは孝の始めなり。身を立て、道を行ひ、名を後世に揚げてもって父母を顕わすは孝の終わりなり」。

藤樹の「孝」の思想は、「孝」を宇宙的な原理として捉えようとした点に大きな特色があります。「万事万物のうちに孝の道理備わらざるなし。従つて人は天地の徳、万物の霊なる故に人の心身に孝の実体みな備わりたり。身を離れて孝なく、孝を



離れて身なき故に身を立て道を行うが孝行の綱領なり」。

フリートキングでは、日々の生活の中で教えをどう生かしていくか、等について毎回活発に議論しています。

「中江藤樹がいなかったら、明治維新は起きなかったかもしれない」と言われています。それほどの日本の誇り、郷土の誇りである中江藤樹について、皆さん、一緒に学びましょう。